



令和7年度 中学部 生活単元学習の実践事例

単元名：飲食店で食事をしよう

授業者：古長 令伊

教材について

本グループの生徒たちは食事への関心が強く、これまでの飲食店を利用する学習において、自分が食べるメニューを注文する、財布からお金を出して支払いをする、ちょうどの金額をそろえて支払うなどの活動に、支援者と一緒に取り組んできた。また、飲食店は、生徒たちの生活において利用する機会が多く、できるようになったことが普段の生活にもつながりやすい。

そこで、本実践では、飲食店で食事をする活動のうち、メニューを注文する、代金を支払うなどの活動を自分でできるようになったり、できることの範囲を増やしたりしてほしいと考えたとともに、生徒たちの課題の引き受けやすさを考慮し、飲食店の利用を取り上げた。

中心となる内容の学習指導要領の段階と内容

職業・家庭科(生活科 小学部1段階 ク 金銭の扱い)

知・技：(イ) 金銭の扱い方などに関心をもつこと。

思・判・表：(ア) 身の回りの生活の中で、教師と一緒に金銭を扱おうとすること。

学 び：ウ 自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に関心をもち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。

配慮的な内容の学習指導要領の段階と内容

社会科(生活科 小学部2段階
コ 社会の仕組みと公共施設)

知・技：(イ) 身近な社会の仕組みや公共施設の使い方などを知ること。

単元目標

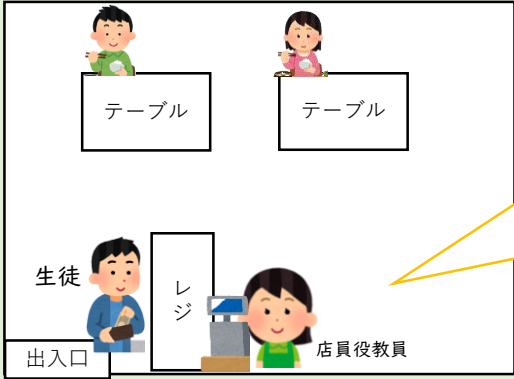
知・技	模擬の飲食店で料金を支払う時、支払いの手順がまだ残っていることがわかり、財布の中のすべての金銭をカルトンに置いた後、お釣りとレシートを受け取って財布に入れる
思・判・表	飲食店で料金を支払う時、財布の中のすべての金銭をカルトンに置いた後、教師の指さしを見て、お釣りとレシートを受け取って財布に入れる
学 び	校外学習の支払いについて、当日の支払いの場面を思い出しながらお釣りやレシートを財布に入れることができたかどうか振り返る
配 慮	バスに乗降する時に、教師の言葉かけや指さしを見聞きして、ICカードを読み取り機にかざす

授業評価

知・技	模擬の飲食店で財布の中のすべての金銭をカルトンにおいて支払いをし、おつりとレシートを受け取って財布に入れることができた。
思・判・表	校外学習当日の飲食店で料金を支払う時に、財布の金銭をすべてカルトンに置くことができた。また、その後教師がカルトンと財布を交互に指さすと、お釣りとレシートを取り、財布の中に入れることができた。
主 体	校外学習当日、お釣りとレシートを財布に入れている時の写真を指さし、自分の学習を振り返る姿が見られた。
配 慮	教師が読み取り機を指し示し、「ピッ」と言葉をかけると、ICカードを読み取り機にかざしてバスに乗降することができた。



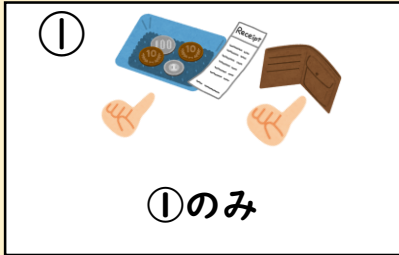
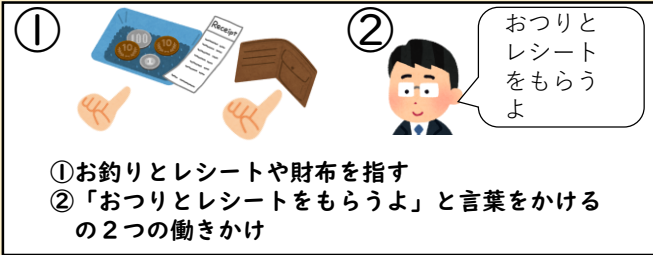
飲食店の利用の流れを具体的にイメージするための学習活動の工夫



当日の飲食店を利用する活動のイメージがもてるように、注文する→食べる→お金を支払う→**お釣りとレシートを財布に入れる**という一連の活動に取り組む中で、目標となる行動ができるように繰り返し取り組む。



お釣りとレシートを財布に入れることができるようになるための働きかけの工夫



財布の中にお釣りとレシートが入っている様子を
示しながら、できたことを認める



考察

○目標となる行動に繰り返し取り組み、生徒の高まりに応じて働きかけの強度を段階化することで、模擬の飲食店での支払いの場面では、おつりとレシートを受け取って財布に入れることができるようになった。しかし、校外学習当日の飲食店での支払いの場面では、教師の支援が必要となった。

⇒ 対象児の学び取りの傾向から、模擬の飲食店でできるようになった段階で飲食店に実際に行き、場面や状況が変わった中でも取り組む計画にする必要があった。

○本実践は、グループの生徒の学び取りの傾向から、それぞれの生徒の課題となる活動に繰り返し取り組むことを通して、生徒が課題を意識できるようにした。

⇒ 生徒の学び取りの傾向に応じた課題解決の方法を検討する必要性を改めて感じた。また、本実践のグループの生徒には、目標となる行動を焦点化し、繰り返し取り組むことが重要であるとも感じた。